

《プロジェクトテーマ》
「パプアのコーヒー豆を直接仕入れて、
貧しい農園の子供たちを学校へ行かせたい！」
【支援報告】



《支援報告》

**「パプアのコーヒー豆を直接仕入れて、貧しい農園の
子供たちを学校へ行かせたい！」**

多くの方々にご支援を頂き、今回の表題の目的達成のため、8月5日から8月20日の期間、インドネシア パプア州ワメナのアントン農園へ行ってきました。結果のご報告です。

《達成項目》

- 1、アントンさんの娘さん《oliaちゃん》を小学校へ入学（復学）させることが出来ました。
- 2、ジャカルタで製造した《コーヒー豆の脱穀機・HULLER》を空輸にてアントン農園に無事寄贈設置できました。
- 3、川からの《水くみポンプ一式》を寄贈しました。
- 4、今後の岩下珈琲との「直接取引」について、関係者と協議を行いました。

多くの問題点やトラブルが起きましたが、この約2週間で初期の目的を達成することが出来ました。ありがとうございました。

ご協力頂きました方々へのお礼

支援活動に当たり

●全体で73人の方々にご支援金と励ましのお言葉を頂きました。

●銀行様には支援金の不足分の対応方法などのアドバイスを頂きました。

●インドネシアの友人には、通訳さんの紹介をしていただきました。

●パプア州のパプア大使夫人には、ワメナ地区へ「外国人が支援活動」で入る事でのVISA的問題点などのアドバイスを頂き、スムーズに活動が出来ました。

ご協力を頂きました皆様に、お礼を申し上げたいと思います。どれ一つが欠けても今回の支援は達成できなかったことであり、大変感謝しております。

ありがとうございました。

《プロジェクトテーマ》

「パプアのコーヒー豆を直接仕入れて、貧しい農園の子供たちを学校へ行かせたい！」

このプロジェクトで皆様にご協力をお願いしてまいりました。
2019年1月31日で完了

アントンさん
の子供達と
(2017年)

店主



インドネシア・パプア州・ワメナ地区のアントンさんのコーヒー農園。彼らは貧しく電気、ガス、水道も無く、上の子供3人は学校へ行けません。ここに脱穀機などのコーヒー精製加工設備を支援をすることで、岩下珈琲はアントンさんから直接生豆が購入でき、直接支払いが出来ます。そのことで、経済的支援が可能になり、子供達が学校へ行くことが出来ます。そして、岩下珈琲もより良いコーヒー豆を購入でき、今後のコーヒービジネスが広がります。

支援金 実績

方法	パトロン数	金額	備考
クラウド ファンディング	4 7 名	305,440	手数料17%引いた金額
店舗持参	2 6 名	232,000	
支援者：合計	7 3 名	537,440	

募集期間：2018年12月1日から2019年8月4日

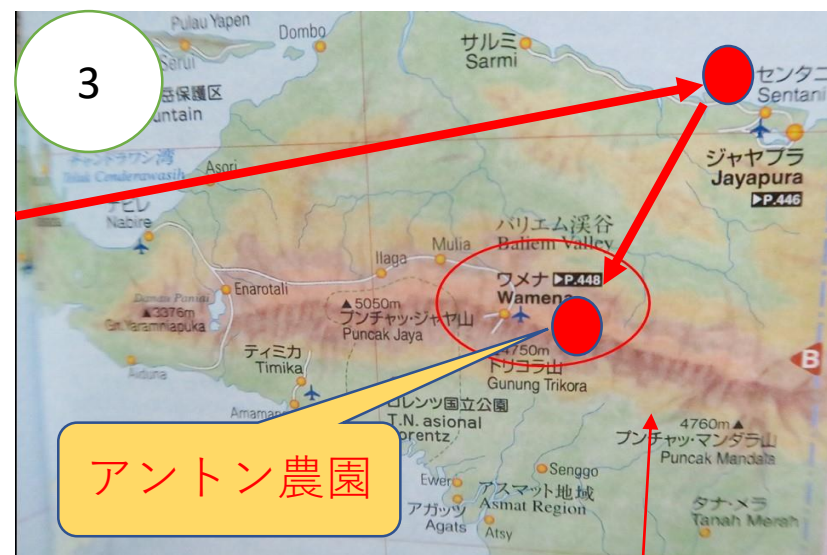
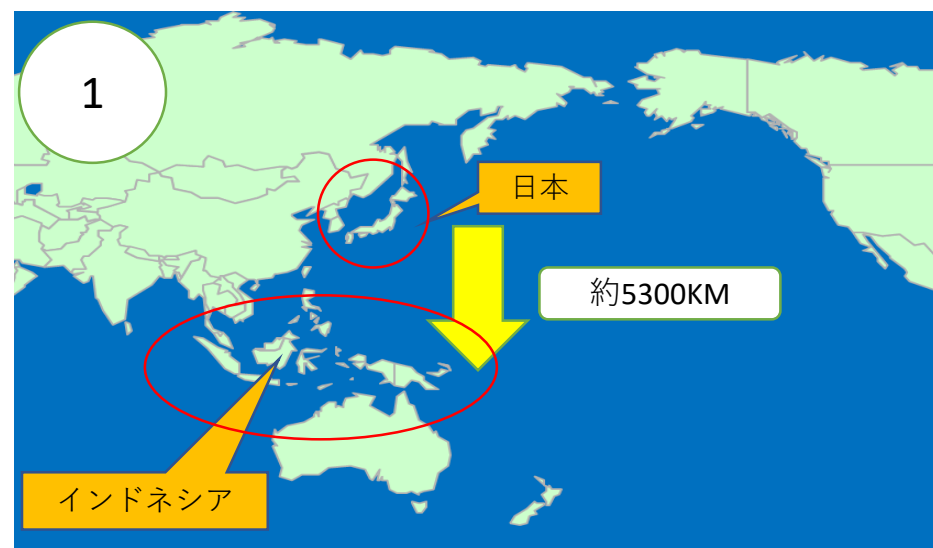
目標予定額には達しませんでした、多くの方々より賛同頂き、支援金を頂きました。本当にありがとうございました。
当初の計画項目に対して、予算的に実行できない部分が発生してしまいました。それは次回への宿題とし、今回は、予算内での実行となりました。

多くのご支援や、励ましが「何としてもやり切る！」との思いを強くしました。
たった一人（通訳さんがいます）での計画、実行でしたので不安もありましたが、何とか「子供たちを学校へ行かせたい」との主目標を達成できました。

スケジュール実績（2019年8月5日～8月20日：17日間）

[illegible]

アントン農園までの道のり日本から約9,300Km

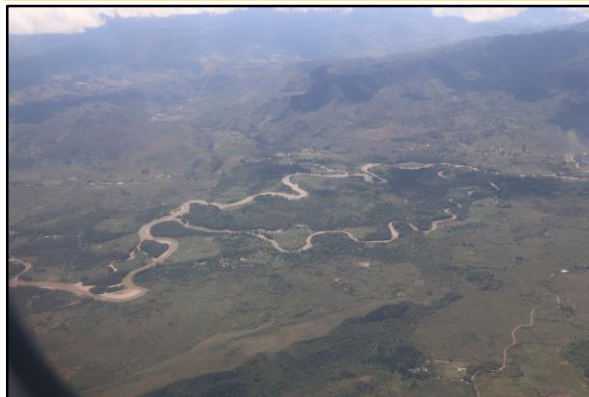


いざ、ワメナへ！

飛行機は双発機でちょっと心配



ワメナ盆地。川の大きな蛇行が目を引きます。



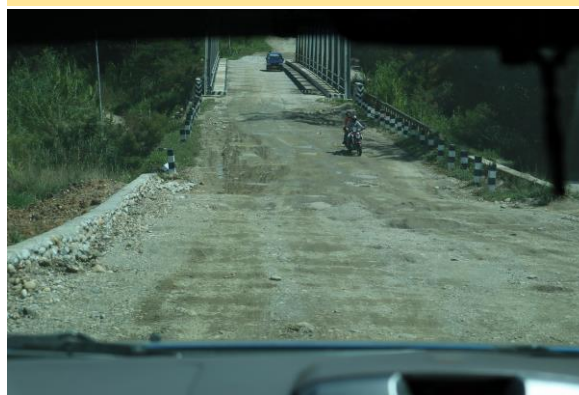
新大統領の政策で新しい空港が建設されています。



トラックの荷台が交通手段。バスなどありません。



政策にて橋や、道路が整備工事があちこちで行われています。



町から車で約1時間。やがてアントン農園が見えてきます。



アントン家はこのあたり

今回で3回目のワメナです。インフラ整備が進んでいることがはっきりわかります。新大統領は、ワメナへの経済支援に力を入れているようです。道路事情が良くなることで、人、物が動き、経済効果をもたらしているようです。

アントン一家との再会

アントン一家との再会



アントン農園の公認栽培の看板



アントン一家と（左端は通訳さん）



ここは、海拔 1,600 m



なんと、新しい家が建てられていました。グループの《仕事場》兼アントン一家の住居だそうです。

目的① アントンさんの二女（オリア）ちゃんは[SEKOLADASAR INPRES MULIAMA]小学校へ復学が決まりました。



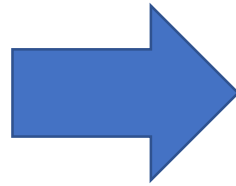
主たる目標を達成しました。挫折せず、通ってほしいと思っています。

アントン一家の二女 olia(オリア) ちゃん

2016年の会ったときのoliaちゃん



今年、2019年のoliaちゃん：14歳



Oliaちゃんは、数年前は、学校へ通っていたそうです。しかし、途中で脱落？した様です。今回、「学校へいきたいですか？」と質問したら「行きたい！」と答えてくれました。その言葉に、「ここまで、来て良かった！」と思った瞬間でした。インドネシアでは、新大統領政策で、小中学校が無償化になっているようです。**この子に必要なのは、制服と、入学金、それと《学校へ行く様に背中を押す人物》ではないかと思いました。**

オリアちゃん、小学校へ入学する！

2019年8月15日 アントンさんの二女oliaちゃん、小学校へ復学しました。



学校はこのあたり

オリアちゃんを通う小学校は、自宅から歩いて30分
くらいの場所にあります。この写真の奥にあります。
小学校の名前：SEKOLADASAR INPRES MULIAMA
児童数：153名



小学校の校門で、校長先生が出迎えてくれました。
質素な校門と校舎でした。



ここの小学校へ通うこととなったオリアちゃんと握
手。「良かったね、学校に行けるようになって。勉
強を頑張ってください」と声を掛けました。

支援金の中から入学金をお支払いしました。



黒板に学校名と在籍人数が書かれています。
小学校の名前：SEKOLADASAR INPRES MULIAMA
児童数：153名



入学金を支払いました。
近年の政策により、学校が無償化になりましたが、
入学金は、必要とのこと。私が皆さんからの支援金
からお支払いしました。（日本円で1万円ほどです）
（入学金を校長先生に渡しているところです）



入校が決まり、みんなと記念撮影。
オリアちゃんは、挫折せずに学校へ通ってほしいと
思っています。

目的② 「アントン農園へ脱穀機を寄贈」遂にやりました！。



2度目の訪問となった2017年、「彼らのために何か支援をしたい」との思いから生産性を向上させて、利益を上げられるもの？脱穀機だ！やっと実現しました！この機械は小さいけれど、きっと大きな利益を生み出してくれると信じています。

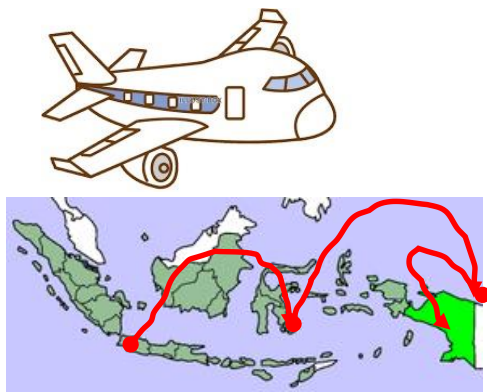
アントン農園に脱穀機がやってきた！「ワッ！ワッ！ワッ！、、、」

2019年8月13日pm3:00にジャカルタより、約4,000kmの旅を経てこのアントン農園に「待望」の《コーヒー豆脱穀機》が届きました。

ジャカルタ・ボゴールの会社に製作依頼、急ピッチで完成してもらいました。



脱穀機は空輸で、遥かワメナを目指し、5日間を経て、無事アントン農園に到着。



脱穀機がアントンさんの農園に届くと、夫婦で「ワッ、ワッ、ワッ、、、」と最上級の感謝の言葉が発せられました。私の一つの夢がかなった瞬間でもありました

脱穀機は、組み立てられ試運転もバッチリでした！



アントン農園はこう変わります（収益増加につながる）

現行の精製加工

収穫 皮剥き 水洗い 天日干し 出荷

殻が付いているため安価な買い取り価格となる



参考
アントンさんの利益
1kg=60,000ルピア

仲買人へ
売却

仲買人

脱穀

天日干し

出荷

脱穀機追加の精製加工

収穫 皮剥き 水洗い 天日干し

脱穀

天日干し

出荷

仲買人

脱穀機追加で

《生豆》の状態
で商品
価値が高くなる



参考
アントンさんの利益
1kg=120,000ルピア
約2倍に増える！

脱穀機をワメナに送るエピソード！

インドネシア・ジャカルタで《脱穀機》の製造を依頼しておりましたので、それを受け取り、梱包をして、空輸にてパプア州ワメナのアントン農園まで搬送いたしました。

私は、《脱穀機》が飛行機に積まれたことを（口頭）で確認して、通訳さんと二人で一路、アントン農園へ向かいました。《脱穀機》は幾度も積み替えられてワメナに届く予定です。一抹の不安が宿ります。

インドネシアでは、適格で正確な情報を求めても、なかなか得られません。《脱穀機》は、本当にワメナに届くのだろうか？ 不安ばかりが先行します。一時、脱穀機の話が不明になり、「やはり、届かない！」とあきらめかけた時、滞在先のホテルにトラックがやってきました。荷台には《脱穀機》が載っていました！！。

予定より2日遅れの5日目でやっと届きました。心配し続けました。ここまでくれば、、、。

目的③ 近くの川から生活用水をくみ上げるための（ポンプ式）を寄贈しました。



アントンさんの自宅には水道がありません。100Mほど離れた川からバケツで水を汲んで生活用水として使っています。水は重いので重労働です。これで便利になると思います。

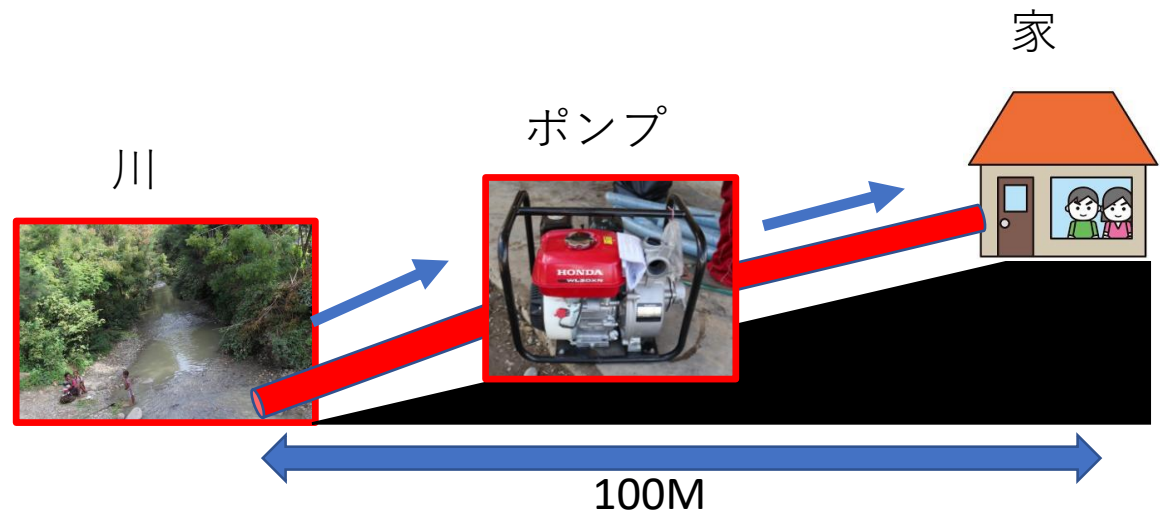
アントン一家に「ポンプ」を寄贈「ワッ、ワッ、、、」



ワメナ地区は、今は乾季に当たり、雨が降りません。当然、雨水を貯めるタンクは空です。生活用水は、100メートルほど離れた川までバケツで汲みに行くそうです。



急遽、町に出かけ水くみENGポンプ一式を購入して寄贈してきました。このポンプで、川の水を、大量に自宅まで引くことが出来ます。また、このポンプを利用して、コーヒーの木にも水まきが出来るようになる事と思います。利便性が向上する事と思います。



目的④ 農園の関係者と、これから取引するルール等の協議をしました。 日本語→インドネシア語→パプア語の通訳となりました。



アントンさんだけでは、コーヒー豆の発送など煩雑な業務処理が出来ないので、コーヒー組合の方に支援をお願いしました。

アントン農園が加入している「コーヒー組合」の方々



コーヒー農園組合の方3名が視察？に来られました。コーヒー農園の支援活動や監視をしているそうです。今回の脱穀機を寄贈したことで、「良い効果をもたらす」と言っていただきました。



機械には、精通されているようで、アントンさんへアドバイスをしていました。これから、アントン農園と岩下珈琲との生豆の取引に関しても、彼らの支援があるそうです。

アントン農園が変わりました。



すでに立派な作業場兼、住居が出来ていました。構成員の共同施設でもあるようです。

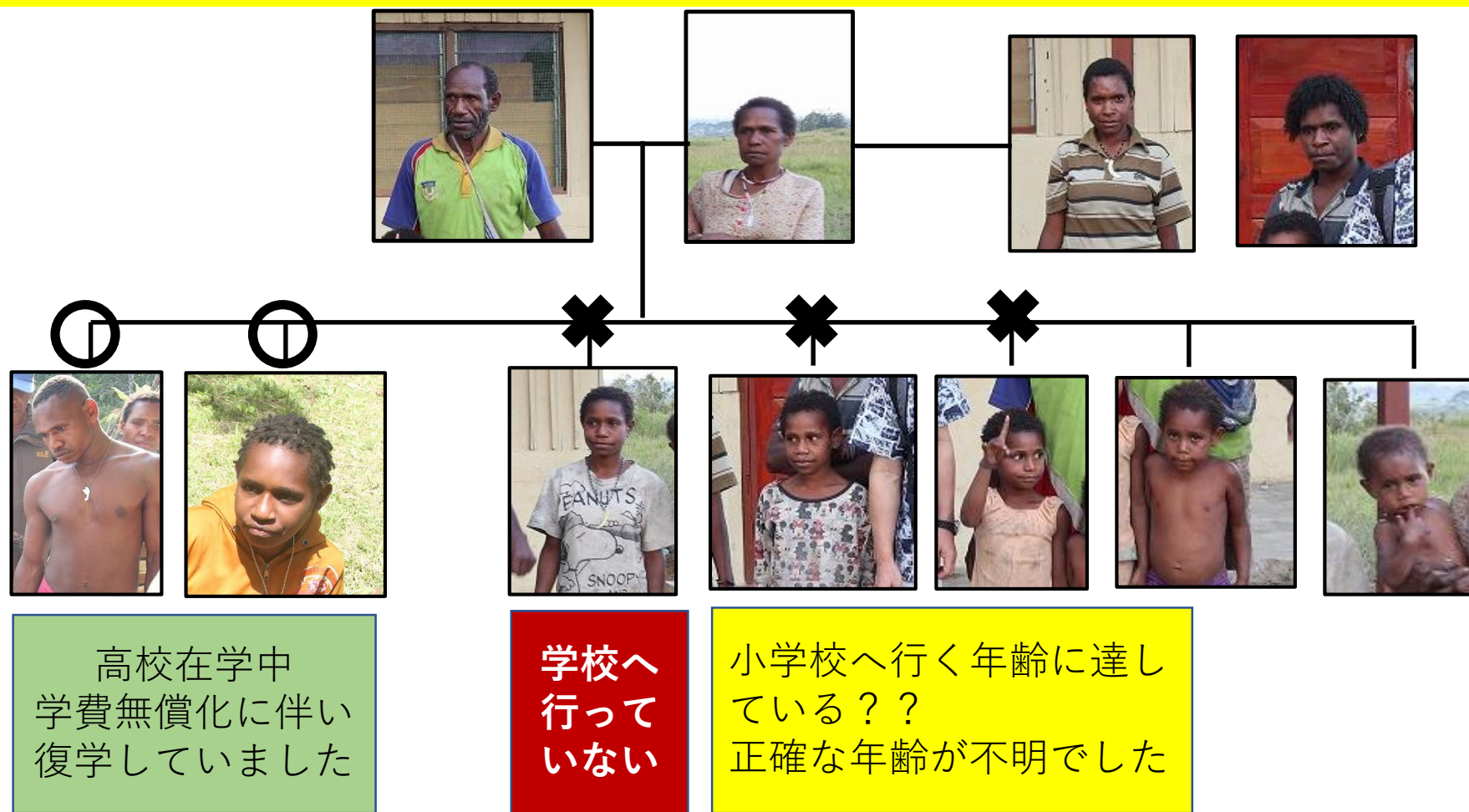


今までは、皮剥機2台とバケツ3個でしたが、今回、脱穀機が追加になりました。生産性が向上します。



コーヒー豆を洗う水、生活用水は、雨水と近くの川からバケツで汲んでいましたが、今回ポンプも寄贈し、川から機械でくみ上げる様になりました。

アントン一家（今回判明した家族構成と問題点）



2016年にここに訪れた時の考えでは、上から3人を復学させる予定でしたが新大統領政策で、学費無償化により上2人は既に復学していました。3番目の「オリアちゃん」は、年齢的には中学2年生らしいのですが、学校へ行っていませんでした。4番目、5番目もどうやら、小学校へ行く年齢に達しているようですが、行っていません。

アントン農園の構成メンバーと年収

年収
100～130万円

リーダー
アントンさん

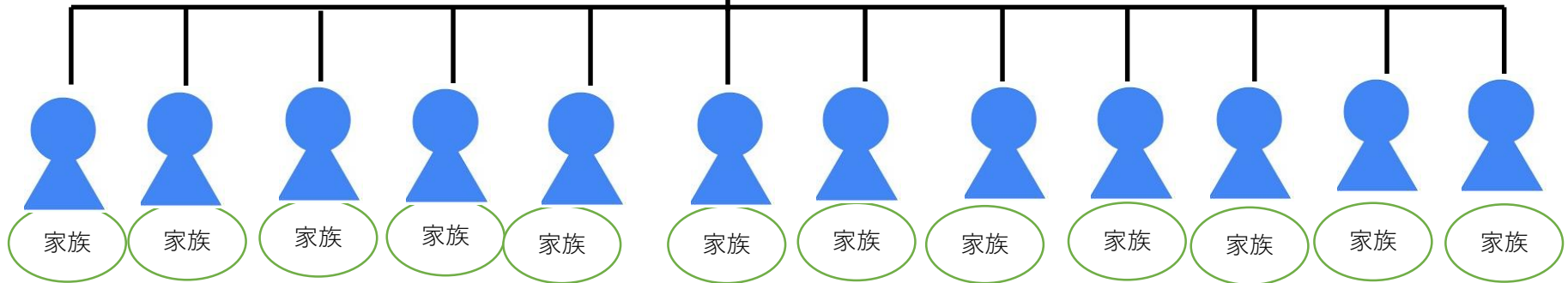


年間の豆の総収穫量3トン
販売価格：1kg=60,000ルピア
 $60,000\text{RP} \times 3,000\text{kg} = 180,000,000\text{ルピア}$
日本円 = ￥130万円

分配

$130/13\text{名} = 1\text{人あたり} : 10\text{万円/年収}$

13名での構成農園



グループとその家族は、単純計算では、月に1万円程度で生活をしていることになります。

ここワメナでは、日用品、食料品、たばこの価格は、ジャカルタ市内価格か、それ以上に高いのではないかと話を聞きました。物資は、すべて空輸のため、必然的に価格が高いということです。しかし、このままでは、アントンさんなどの先住民族でコーヒー農園に従事する人々の生活向上は望めないのではと思います。

ワメナは、物価高い！郊外ではさらに高くなる原理

私はこう感じました。
アントンさんの場合。

郊外の雑貨店では、ワメナ商店街より付加価値をつけ、更に高くなっている？

アントンさんは、歩いて行ける郊外の雑貨店へ、ワメナより割高な日用品等を買っていることになる。

ワメナの町の商店街



距離がある



郊外の雑貨店

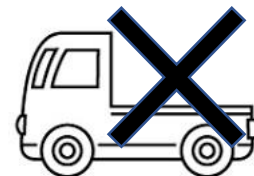


先住民族
アントンさん



ワメナの町で少しでも安いもの
を買いたい！

ワメナの町までは遠くて、買い物に
出かける交通手段を持っていない



少ない収入から、ジャカルタより高い？と言われる日用品や食料品を買わざるを得ない弱者に不都合な経済原理になっているのでは？

今のままでは、アントン一家の生活レベルは、向上しないのでは？

改善策として、アントン農園がさらに多くの利益を上げることで、収入に占める生活費の比率を少なくしていく事だと考える。アントン一家の生活が向上するには、コーヒー豆の生産性を上げなければならない。

アントン一家の新居



部屋は、4つの区切られていました。家具、照明はありません。



水道は無く、雨水を貯めたり、近くの川から汲んでくるそうです。川の水を飲んでいます。



母屋の離れに「台所小屋」があります。中にあるのはこれだけです。



私が買ってきたカップ麺のお湯を沸かしていました。

想像を超えた生活環境でした。草むらにトイレらしき水溜まりがありました。何を食べているのか？聞くことが出来ませんでした。

アントン農園は自然林の中にあります。



ここが、「ワメナコーヒー農園」です。



パプア州ワメナのコーヒーとは、
アントン農園の人々は、認識しています。

化学肥料や農薬は、土や水を汚染し、しいてはそれが自分たちをも毒するものだという事を、、、。

ここアントン農園は、自然林の中でコーヒーを育てています。
コーヒー豆が13世紀の初め、エチオピアの高原で発見された時と同じ環境なのかもしれません。ここで、自然由来のコーヒー豆が生産されています。
これは、《真実》です。

ここ、ワメナは。
●標高1600M。
●年間降雨量が1500mmを超える。
●一日の気温の寒暖差が大きい（事例27℃→13℃）
●完全無農薬
だから、美味しいコーヒーが育つのです。

ワメナコーヒーの入荷予定（リターン豆）

今回、アントン農園との直取引となります。コーヒー組合の方々を通じて、生豆の買い取りを始めていきます。

まずは、少量の生豆をシュミレーションとして、スマトラ島メダンまで送ってもらう計画です。その結果を見て、改善すべきところなどを修正して、本格的に買い取り量を上げていく計画です。

ご支援頂きました皆様への「リターン」は、当初、10月ごろとお約束しておりましたが、11月か12月にずれ込む可能性が出てきました。申し訳ありません。

ご理解をお願いいたします。

この報告内容は、ご支援頂きました皆様に郵送でお送りいたします。
よろしくお願いいたします。

今後の支援活動について

来年6月ごろに、アントン農園に出向く予定です。
今回判明した、オリアちゃんの下の子供二人が小学校へ通う年齢と思われます。
もし、学校へ行っていないければ、この二人を学校へ入学させる予定です。

現地では、物価が高く、衣服が高価でした。古着などを持参したいとも考えております。

新しい住居に電気が来ており、アントンさんの携帯電話が常時、通じるようになっておりましたので、彼と連絡が取れることは、大きな進展です。

これからの活動内容については、ブログを通じて、皆様にお伝えしていきます。
よろしくお願いいたします。